

はじめに

第4次東濃西部広域市町圏計画の策定にあたっては、この計画のキーワードを「交流」として、将来像を『「人・もの・情報」が行き交う魅力あふれる産業文化創造圏』といたしました。前期計画期間の2005年には、愛知県で日本国際博覧会が開催され、同時期に中部国際空港が開港し、東濃研究学園都市構想の具現化も進んでいます。それらの国家プロジェクトに合わせて、東海環状自動車道（東回りルート）が一部開通したことにより、この圏域の「人・もの・情報」の交流は一層進みました。特に三河方面へのアクセスが容易となり、この地域の開発ポテンシャルは非常に高くなっています。

一方で全国的な合併機運の高まりに合わせて東濃3市1町合併協議会が設立、協議が開始されましたが、2006年の住民意向調査の結果を踏まえ、合併しないこととなりました。その後、多治見市、笠原町の合併は行われたものの、3市がより広域的な機能を高め、連携を深く行う状況には至りませんでした。

こうした状況を踏まえ、後期計画を策定するにあたり、本計画では広域的な役割分担のもと3市がそれぞれ単独で事業を進めていく事業は掲載せず、真に広域的に取り組むべき事業のみを選別して掲載した計画となっています。

3市は地理的、歴史的、経済的条件が共通した運命共同体として、各市が持つ恵まれた環境や資源を有効に活用し、この圏域の発展に努めていかなければなりません。本計画の推進にあたっては、圏域住民の方々をはじめ、圏域構成市、国・県等各関係機関のご支援、ご協力が何よりも必要と考えますので、より一層のご指導、ご協力をお願いいたします。

終わりに、本計画の策定にあたり、ご協力をいただきました多くの皆様に心から感謝を申し上げますとともに、今後とも本圏域の振興発展のため、一層のご理解とご協力をお願いいたします。

平成19年3月

東濃西部広域行政事務組合

管理者 多治見市長 西寺雅也